

Debug Engineering

2009/10/02 JaSST'09 Hokkaido

レビューの前にできること

(有)デバッグ工学研究所 奥村 有紀子

aokumura@debugeng.com

レビューがあるからと安心してませんか？**DEI**

- レビューは大切です！
 - …と細川さんも言ってらっしゃいましたよね
- でも「レビューのプロ」が増えても、なかなか作り手の文章作成スキルはあがりません
 - レビューをすると、確かにドキュメントの品質は改善されます、しかし…
 - レビュー結果を受けて、その部分しか見直さない
 - ドキュメントは良くなるけど、自分に何が足りないのか、までは踏み込んで整理しない
 - のどもと過ぎれば…で、レビューが終わればそれで終わり
 - ちょっとずつでも、作り手に改善していただきたい！
- 最近、仕事でもプライベートでもレビュー三昧です
 - 仕事は、品質に関する改善のお手伝い(レビューもたくさん)
 - 個人では、日科技連SQiP研究会テスト分科会の副主査で論文指導
 - その他、プライベートでも文書作成の手直し、などなど

- SQiP研究会とは

- 日本科学技術連盟(日科技連)で、ソフトウェア開発関係者がソフトウェア品質技術、マネジメント技術の開発と習得を行うことを目的に運営
- チームごとに1年間かけて、選択したテーマを研究する
- 成果を論文にして、最後に発表
- 私は、富士ゼロックスの秋山さんとともにテスト分科会を指導

- 昨年度、テスト分科会は最優秀 & 優秀賞を受賞

- 「WEB システムにおける画面遷移図表表記法の提案と効果的なテストケースの作成」・・・第5分科会テスト設計G
- 「要求仕様書におけるテストエンジニアの視点を活かした欠陥検出方法の提案」・・・第5分科会テスト分析G
 - 2論文の掲載サイト : <http://www.juse.or.jp/software/46/>

- 今年度SQiPシンポでも、受賞 & 次点の快挙

- 上記2グループが発表し、Future Award受賞、もう1Gも次点に

考えて書いた文章は相手に伝わります

- 論文の入賞は、論文を読んだ人に、書き手の意図や内容が伝わったことが評価につながったのではと推測
 - レビューでしつこく指導したのは「相手に伝わるか？」
 - 個人的には、研究のやり方だけでなく、文章の書き方も持ち帰ってもらいたい
- ちゃんと考えた日本語を書かないと、せっかく書いても受け止めてもらえません
 - たとえば「てにをは」、接続詞、説明の順序、などなど
- 例：どちらがすんなり読めますか？
 - a. 本論文の解析手法では、表面温度のインプロセスデータの連続変化の微分量の最大値をメンバーシップ関数として定義し、...
 - b. 本論文の解析手法では、表面温度のインプロセスデータにおける連続変化の微分量が示す最大値をメンバーシップ関数として定義し、...
 - 「知的な科学・技術文章の書き方」より

- レビューをしてもらう前にできることは、たくさんあります
 - 伝わらないことには良い／悪いも判断できない
 - 日本語のわかりにくさのため、見つけるべき欠陥自体が埋もれてしまうかもしれない
- 声に出して読んでみると、びっくりするくらい読みにくいことがわかる
 - 長すぎる文や、句読点の打ち方の悪いところ
 - 「てにをは」などの間違いや、連続使用
 - 接続詞が無かったり適切でなかったりするために、文章のつながりがわからない
 - 読み手には、情報だけがどンドンぶっつけられているように受け取れる
 - 括弧が多用されていて、読んでみるとたびたび中断される

- 書いた人ができることは、まだまだあります
 - 以下は、本当は書く前にやってほしいこと
 - 書いた後の読み返し(セルフレビュー)でも十分使えるチェックポイント
- 読み手を想定しているか
 - どのような知識や情報がある人が読むのか
 - 誰に何を伝えるための文章にするのか
- 文章として構造が設計されているか
 - 書きたい対象を説明するには、全体像を把握してから、ドキュメントの構造を考える
 - これにより、網羅的に、重複なく説明された文章になる
- 読み手の受け取る順番を考えて書かれているか
 - 読み手は書かれているとおりに読み進めるので、理解の順序と合わせる

- SQiP研究会メンバが「勉強になった」と言ってくれた観点
 - 読み手や聞き手に、書いた人の意図通りに伝わる書き方になっているか
 - 読み手が受け取れる書き方、順番になっているか
 - 書き手には当たり前のことでも、読み手には説明が必要
 - 「てにをは」などは基本中の基本だが、結構この部分に影響
 - 文章の目的に応じた書き方になっているか
 - 誰に何を知ってもらうためか、など、文章の目的を書き手が理解しているか
 - 分担して作る場合は、特に目的共有に時間を割く必要がある
 - 用語や書き方が統一されているか
 - 異なる書き方をすると、別の意味があるのかと、読み手は混乱する
 - 新しい言葉や用語は、必ず定義してから使っているか
 - 省略してはいけない主語、かかり先がわかりにくい形容詞がないか

目指すは、レビューがラクになる文章の作成

- 日本語としてちゃんとした文章は、レビューがラクになる
 - レビュー時間の短縮
 - 本来の技術的な部分の良し悪しに、十分時間を割ける
 - 時間が空いた分、スキルアップにつながるレビュー方法が取れる
- ここで挙げた観点は、どれもレビューの前にできること
 - そしてどれも、どのような文章にも必要なこと
 - しかし慣れないと、はじめから自分でその観点を盛り込んだ文章作成は難しい
- まずはレビューのときに、指摘として伝える
 - 指摘した事項を修正し、日本語としての伝わりやすさを実感してもらう
 - 納得してもらった、次に観点として伝えて、作り手自身にチェックしてもらう
 - 作り手がチェックポイントを活用できるようになったら、文章作成をする時点で、その観点を盛り込んでもらう
 - このときには、作成当初から「考え方」「構造・構成」などのレビューを行う

• 参考文献

- 中島利勝, 塚本真也, 知的な科学・技術文章の書き方, コロナ社(1996)
- 大学の卒論や修論を書くときの教科書
 - 著者の日本語力教育法の論文は以下に掲載
 - http://www.eng.okayama-u.ac.jp/gp/documents/educlass_program01.pdf
- しかし、ソフトウェア技術者には必須かつ不足している情報ばかり掲載
 - そもそも、「相手に伝えるためにはどのように書くべきか」、なんて習っていない方がほとんどだと思います
- 仕様書や設計書などの技術文書にも十分提供できる
- 今日この本を持ってきているので、ぜひ見にきてください！

• 24SQiP研究会テスト分科会の論文

- メンバの皆様、ご協力ありがとうございました
- SQiPシンポジウムの発表論文も、ぜひご一読ください
 - シンポジウムサイト <http://www.juse.or.jp/software/83/>

ご清聴ありがとうございました

ご質問、お問い合わせはお気軽にどうぞ

(有)デバッグ工学研究所 : <http://www.debugeng.com/>

奥村 有紀子 : aokumura@debugeng.com